

十二湖の青

浅井 律子

昨年の夏、美々貝塚の自然観察会に参加させてもらった。何千年前の生きた証を見たのがきっかけで、「そうだ三内丸山遺跡を見に行こう」……

夏のシーズンを終えた青森の路線バスは、私一人の為に走ってくれた。がさすが、三内丸山はブーム、あるいは発掘された中で特に大きな規模とかのピー・アールのせいが大勢の観光客で賑わっている。四時半を過ぎた頃から、一人・二人と消えていき恐いくらいの静けさをとり戻した。大きな栗の木のヤグラ前で、八甲田の山並を見ながら、遙か五千年前の縄文時代の暮らしなど、思いを馳せてみた。が所詮「何人類？」にはムニヤムニヤ……

I don't understand //

明日はどこへ行くのかな。ガイドブックの世界遺産「白神山地」の西玄関に目がとまった。早朝よりJR五能線、私専用の？バスにゆられ、着いた所は十二湖。

今から二九〇年前の地震によって

できた大小三十三の湖沼があり、ある山より十二みえるという事で名前がついたらしい。奥深い森林のせい、か、大木の木肌はみな同じにみえる、そうだ葉をみれば……全然届かない。ブナの木はコレダ//やっとか名札がついていてわかった。

「ウアッ」思わず声が出た。小さな沼がまっ青なのです。水を掬ってみた(無色)。角度をかえてみた。青いのです。さっそくピジターセンタへ寄ってみました。「グーグー」きた時期が遅かったかしら？と展示物を見て、そおっと出てくる。センターのおやじは冬眠した。名前の通りの青沼はなぜ青い//という疑問を残して。

八景の沼へ来た時、周遊十分の標識にちょっと寄ってみました。キノコがいっぱい出ていて、「オムムラサキシメジに似ている」と腰をかがめてみた。目の前に何か大きな塊がみえた。木の実の未消化っぽいのもみえて、何十年前、高原温泉でみたものに似ている。「熊//」……

そういえばミズ(うわばみそう)を採っていた人は、鈴をつけていた。ウアッ//今度は私が青くなった。思いこんだら命がけ、無我夢中、舗装された道路にたどりついた。(たった五・六分間のこと)「熊に出くわしたらジイッと目を見なさい、そう

したら大抵の熊は逃げるはず」もう遅い思い出したって。

本当に熊の糞だったのだろうか、戻って確かめる勇氣も氣力のなかった。だって全速力・全エネルギーを使って走ってきたんだから「アー生きていてよかった」。

「ブウ……」時たま通る車の音と「ホッホッ」フクロウの鳴く声のアンバランス、恐怖のあとは絶妙である。自然の中で生きるって大変な事なんだね。自分自身に呟いていました。

最後に青沼はどうして青いのかまだわからないそうです。北海道の隣りにもこんな楽しい所？があるんですよ!!